

・内省力

③ライフモデル及びシステム論に基づくアセスメント

・社会生活状況（就労状況、居住環境、親・親族及び近隣関係、専門機関との関係）とそれらのストレス源としての状況

・家族における親や子どもの位置、役割

2) 対応

①アタッチメント・アプローチ

・親の抱えている心理的課題をふまえた限界設定を基盤にした安定性の提供

・可能な範囲で防衛を支持し、より現実的な防衛の仕方に置き換えられるよう支援する

②ストレングス・アプローチ

・健康な価値観や対処行動を一般化できるよう支援する

・起こった出来事を受けとめ、自己非難するのではなく、現実的な対処法を導けるよう共に考える

③ライフモデル・システムアプローチ

・ストレス強化になっている環境側への対処

・社会資源の調整と開発

・家族再生の契機の把握とその見守り

(2) 今後の課題

最後に今後の課題について言及する。まず考えたいのは、あらためて「家族再統合」とは何かという点である。ここには、2つの課題が導かれると思われる。ひとつは、「家庭復帰を家族の再統合という意味でいかに捉えるか」という課題である。虐待の可能性がゼロにならない限り、家庭に戻せないとするならば、児童養護施設において家庭に戻せるケースなどどれだけあるだろう。むろん、何も解決していないのに帰すことが必要だと言いたいのではない。課題解決した場合も問題ないだろう。重要なのは判断に迷うケースである。主張したいのは、家庭に戻すことが家族の課題解決のひとつの契機にできる場合があり、そこからさらなる援助を展開するという視点も重要だということである。

つたない経験と研究成果で述べているので客観性は十分ではないが、施設の現場には、「家庭復帰を逃してはならない時」があるように思われる。システム論を用いて考えても、家族に子どもがいない状態のシステムが通常の状態となってしまうと、親は子どもを引き取る動機付けが弱くなると考えられる。子どもを施設に置き続けることは、親に養育能力がない現実を伝え続けることになる。これを逆に考え、家庭復帰を通して、現実的な親の養育の獲得をはかっていく契機とすることも考えられるのではないか。

むろん、ここで惹起する課題は、虐待の再発の可能性や周囲の支援体制の有無等、どういう状態になったのならば、契機として考えられるのかという判断基準の作成であり、家庭復帰後の援助体制である。これらを今後明確にしていく必要があるだろう。

もうひとつは、家庭復帰が実現できず、施設で成長する子どもの内的な家族の再統合という課題である。彼らもやがては親になる。親から虐待を受け、最終的に家庭にも戻れなかった自分をどのように引き受けていくのか。彼らが親になった際に子どもをいかにして

養育するのか。今回の研究のなかでも、施設で育った子どもが施設に子どもを預けるといった事例が散見された。こうした「再生産」を防ぐためにも、子どもが親を捉えなおす具体的アプローチを検討していかねばならないだろう。

つまり、虐待する親から生まれたという変えられない現実とそうした親から十分な愛情を受けられなかった自分、そのなかで親の愛情をいつまでも懇願し、非現実的な世界に逃避する。結果として、等身大の親を捉えられない。だから、現実の自分も受け入れられない。こうした子どもの内面に親を捉えなおしながら、現実の自己と対峙できるようになっていくこと、これこそが、子どもの内面における家族の再統合なのであり、これがもうひとつの重要な課題なのである。

#### 文献

- ・ Andrew Turnell & Steve Edwards (1999) *Signs of Safety A Solution and Safety Oriented Approach to Child Protection Case Work* NORTON 白木孝二・井上薫・井上ナオミ監訳 (2004)『安全のサインを求めてー子ども虐待防止のためのサインズ・オブ・セイフティ・アプローチ』金剛出版
- ・ David Howe(1995) *Attachment Theory for Social Work Practice* Palgrave Publishers 平田美智子・向田久美子訳 (2001)『ソーシャルワーカーのためのアタッチメント理論』筒井書房
- ・ 数井みゆき、遠藤利彦編著 (2005)『アタッチメントー生涯にわたる絆ー』ミネルヴァ書房
- ・ 北川清一 (2004)「ファミリーソーシャルワークの意義」児童養護 Vol35-2
- ・ 野口啓示 (2005)「児童養護施設における援助ー行動アプローチの有用性についてー」母子保健情報第 50 号
- ・ 芝野松次郎 (2004)「施設ケアとファミリーソーシャルワーク」社会福祉研究 90 号
- ・ 庄司順一 (2004)「乳児院・児童養護施設等における被虐待児童の保護者への援助のためのガイド」児童虐待防止対策支援・治療研究会編『子ども・家族への支援・治療をすすめるために』